



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

今年10月に高岡商工ビルを主会場に、日本鑄造工学会全国講演大会が開催されます。このことに関連して、学会誌2月号に北陸支部だよりとして、富山県立大学准教授 上谷保裕さんが、有礪正八幡宮での「ふいご祭り」を写真も交えて2ページにわたり詳細に紹介しました。記事の中で鑄物資料館と金屋の町並みについてもPRしてくれています。詳細を見たい方は、新森慎之助さんが学会誌を定期購読しておられるので問い合わせてください。

鑄物資料館リニューアル記念企画

名工に残る技 展

鑄物資料館ではリニューアルを記念して、人間国宝の金森映井智さんにテーマを絞り主題の企画展を開催中です。5月10日までですので、まだの方は是非お越しください。

新発見！梵鐘まで作った金森さん

滑川市の旧宮崎酒造へ町づくりグループを訪ねて行った折に、滑川市観光協会の方が滑川市の徳城寺に金森映井智作の梵鐘があると教えてくれ、早速見てきました。

解けました。

金森さんのアルバムの中に、梵鐘の外型にへら押し加工をしている写真も見つけました。第一展示室に展示してあります。

粘土のミニチュアモデルで構想



金森映井智さんは作品のデザインを構想するのに多くのスケッチを描きましたが、その他に粘土をこねてミニチュアモデルを作り、模様を刻んで立

体的イメージをふくらませました。写真のモデルは高さ約5センチです。第一展示室の仕事場再現コーナーに展示してあります。

真鍮板の年賀はがき版画

金森さんの遺品の中から年賀はがきに使ったと思われる版画が数枚見つかりましたが、なんと真鍮板を鑿で彫って作ってあります。彫金家ならではの発想ですね。第2展示室の壁面展示ケースに展示してあります。



平等鐘 人間国宝・金森映井智作
A living national treasure (平成4年鑄造)
살아있는 국보



室町時代に造られて市の文化財になっている梵鐘が落下破損したことから、平成4年に金森さんに依頼して新たに製作したそうですが、いかにも金森さんらしい直線的でシンプルなデザインです。鑄物資料館にある金森さんの遺品の中に、梵鐘龍頭の原型と梵鐘表面の模様付けに使うへら押し用具があり、彫金・象嵌が専門の金森さんが何故？と疑問に思っていたのですが、これで謎が

全国の重伝建地区の写真を展示

重伝建地区がある全国の市町村で構成される「全国伝統的建造物群保存地区協議会（伝建協）」という組織があり、全国の重伝建地区の写真パネルを製作し必要に応じて貸し出しもしています。今回はこれを借りて第3展示室に展示しています。

防火・防災マイタウン発会式

4月20日 公民館において、自治会役員と消防関係者30名あまりと西条校下連合自治会長の荻沢勝一さんが出席し、主題の発会式が行なわれました。



代表して防火防災推進員委嘱書交付を受ける嶋田さん

これは地域住民の自主防災意識と能力を高めるために、地域を指定して毎年行なわれているものですが、今年は金屋町など計8自治会が指定を受け、この1年間消防署と連携して講習会や訓練を行なうこととなります。8月には富山市の「富山県広域消防防災センター四季防災館」を訪ねて体験的な講習会を予定していますので、皆さんぜひ参加してください。



富山県広域消防防災センターには様々な訓練や研修の施設がありますが、そのうちのひとつで、富山の春夏秋冬の災害や自然の特性を体験できる学習施設を活用し、自然災害の歴史とその克服に向けた先人たちの努力についても学べる体験型



学習施設です。

地震、雪崩、流水、風雨、煙、初期消火など、様々な体験学習の設備が設置されています。

NHK ひるブラが 金屋町へやってきた

4月23日に、お昼の番組として多くの人に親しまれている「ひるブラ」で「いいもの 鋳物の街～富山県高岡市 金屋町～」として金屋町が全国へ発信されました。皆さん見られたと思いますが、わずか23分間で金屋町と高岡鋳物の魅力をコンパクトにまとめて紹介していましたね。生中継だからか、撮影機材の多さとスタッフの多さには感心しました。



撮影の一コマ

高岡市博物館に親しむ会～設立総会

3月6日、博物館において主題の会があり、発起人代表の飛見立郎さん（飛見眼科医院の先生）が会長に就任しました。飛見さんは挨拶の中で「子供たちが熱中するような博物館にしたいという夢がある」と述べていましたが、全く同感だと思います。

親しむ会は、昔存在したものがあつた時から無くなつていたのを復活するもので、個人会員は年会費1,000円で、イベントの案内などいろいろ特典があります。